

# 消化器外科、乳腺・内分泌外科（第一外科）

## プログラムの概要

<http://y-surg1.jp/>

当科では、リサーチマインドを持った専門性の高い外科医の育成を自覚しています。その背景にあるのは、“A surgeon scientist combining with humanity and science”

という基本理念です。すなわち、消化器ならびに乳腺内分泌疾患の主要な、しかも頻度の高い疾患と同時に、他施設では対応できない高難度の症例を経験することによって高い専門性を身につけるとともに、humanityを培い、症例から学んだ知見を医療に還元できるようにより深く追求するというリサーチマインドを有した医師の育成をプログラムの大きな目標としています。

## アピールポイント

当科では、医学生時のBCCおよびACC、卒後臨床研修1年目、2年目の4年間でシームレスに連携した指導プログラムに従って、段階的に疾患概念ならびに外科手技を習得することができるような指導体制をとっています。

指導する教官の多くは、関連学会（外科学会、消化器外科学会、消化器病学会、肝臓学会、乳癌学会等）の専門医、指導医で、多くの専門医資格の取得が可能です。内視鏡外科学会技術認定医やロボット手術術者・助手有資格者も多数在籍しており、これからの鏡視下手術やロボット手術の時代に向けた修練を積むことも可能です。また、肝胆膵外科学会高度技能専門医2名が在籍しており、肝胆膵外科を目指すにも良い環境です。研修医の先生方には積極的に手術に参加していただくというスタンスも確立されており、実際に乳腺手術、開腹手術だけでなく鏡視下手術についても部分的に多くの研修医の先生に執刀してもらっています。



実際の手術で縫合を行う研修医

## 具体的な研修内容

研修1年目は、一般的な外科手技と周術期管理を学ぶことを目標にしており、将来、外科医を目指さない研修医にも、外科での研修が実際の医療の場で生かされるよう、実際の患者さんを対象にした縫合と結紮は最低でも習得できることを考慮しています。さらに、2年目の研修では、外科の初期研修と位置づけ、消化器・乳腺内分泌領域の外科手術手技の基礎を習得し、さらに執刀医としても手術に参加できるよう考慮しています。また、症例から学んだ新たな知見を報告し、公開することの重要性を学ぶため、積極的に学会報告（全国学会も含めて）・論文報告をしていただくことを基本に、丁寧にその指導を行っています。将来外科医を目指す研修医は、3年目以降、外科学会専門医を目指して外科専門医制度による専攻医となり、山梨県外科領域専門研修プログラムに則って、当院や県内外の連携施設での研修を行い、短期間での外科専門医、消化器外科専門医、乳腺専門医の資格取得を目指していただきます。

	卒後研修1年目	卒後研修2年目
手技	一般外科の手技・検査・処置を学ぶ。 皮膚縫合、結紮止血が行えるようになる。 開腹・閉腹、乳房切除の第一助手が行えるようになる。 虫垂切除を術者として行えるようになる。	開腹・閉腹、消化管吻合、胆嚢摘出術、胃切除術、結腸切除術、乳房切除術を術者として行えるようになる。
症例	外科学の総論を学ぶ。外科周術期の管理、特に輸液管理やドレーン管理を学ぶ。	消化器・乳腺内分泌疾患の概念を学び、各症例について検討する。
課題	症例報告や学会発表を行う。	症例報告や学会発表を行う。

